

向け取り進めていきます。



朝日小学校で開催されたアート体験事業のお披露目会

2 「教育委員会点検・評価報告書」の提出

「教育委員会点検・評価報告書」は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、「効果的な教育行政を推進し、地域住民への説明責任を果たす」ことを目的に、教育委員会がその権限に属する事務事業の管理、および執行の状況について、点検・評価を行うこととされており、例年、その内容を議会に報告するとともに、町のホームページにおいて公表するなどして、情報公開に努めています。

今年度は、令和4年度に教育行政執行方針で掲げた重点施策に基づき、教育委員会各課が実施した内容、実感を伴う活用ができていないことが考えられます。

一方、中学校において例年高い数値が出ていたICT機器の使用頻度については、今年度は全国平均を大きく下回り、原因としては、使用機会は多くあっても、課題を解決したなど、実感を伴う活用ができていないことが考えられます。

今後は家庭学習や長期休業中などの活用、仲間との協働によって課題を解決していくツールとしての活用など、活用の場面を意図的に設定していくことが必要と考えられています。

各校においては、本年度の結果を踏まえ、校長を中心として、教職員が詳細な結果分析を行い、共通認識を持った上で、今後の授業改善や、家庭学習の定着化に向けた取り組みを強化していくことにしています。

また、当町では各校の結果分析などを受けて、教職員で組織する学力向上推進委員会において、町としての分析と課題整理を行った上で、目標を定め町全体として共通の取組を行っていく予定です。

なお、調査結果の詳細については、町広報誌において、今後の改善策を含め、改めて公表します。

事務事業について内部評価を行った後、学校運営協議会、社会教育委員協議会、スポーツ推進委員会、更には、認定こども園保護者会に外部評価を頂きました。

令和4年度の教育行政の執行にあたっては、重点施策に基づき、計画した事務事業を展開したところでありますが、教育予算全体にわたりご配慮をいただいた上で、概ね計画どおり実施できたものと考えています。

まず、管理課所管の学校教育に係る事務事業では、新学習指導要領に係わり、「個別最適な学び」に向けたICT機器の効果的な活用と地域資源を活用したふるさと教育の実践、朝日小学校および新小学校の学校事情に対応した町費負担教職員の配置、認定こども園の園児数に応じた職員配置、更には、小学校統合へ向けた取組みなど、計画した教育環境整備と、それらを活用した教育活動の実践が図られたと考えています。

また、社会教育課所管事務事業におきましては、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら集客事業を展開し、レ・コード館を中心とした特色ある社会教育事業の実践、ふるさと自然や歴史などの資源を活用した学習や体験機会

4 中体連全道大会および各種大会の出場結果

新冠中学校では、本年度、陸上、柔道、卓球、男子バレーの4種目が、地区大会を勝ち抜き、中体連全道大会への出場を果たすとともに、吹奏楽部においても、北海道吹奏楽コンクールへの出場を果たしました。

各種目において健闘したものの、中体連においては、卓球個人戦の2回戦進出を最高成績として、吹奏楽部は銅賞を受賞して全道大会を終えています。

加えて、卓球部においては、北海道卓球選手権大会中学2年生以下のカデットの部への出場を果たしたところであります。

全道大会へ出場した生徒たちは、緊張感溢れる会場を舞台に、技術力や精神力の面で多くのことを学ぶ貴重な経験となったものと考えており、教育委員会では全道大会への選手派遣に係る費用について、引き続き支援していきたいと考えています。

5 令和5年度新冠町少年国内研修交流事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度および3年

の提供、さらには、体力向上やスポーツに親しむ機会の提供など、町民の皆さんのご協力をいただきながら、年間を通じた事業展開を図ることができたと考えています。

教育委員会としては、評価の過程で頂いたご意見を参考に、今年度の事務事業の執行に活かすとともに、次年度以降の事務事業の改善や推進に努めてきたいと考えています。

3 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

全国学力・学習状況調査は、小学校6学年、中学校3学年を対象に国語および算数・数学、そして中学校は3年に一度実施される英語も加え、3教科について調査を実施しています。

また、『教科に関する調査』に加え、生活習慣や学習方法、学習環境や生活の側面などに関する『児童生徒質問紙調査』、更に学校における指導方法に関する取り組みや、人的・物的な教育条件の整備状況などに関する『学校質問紙調査』の内容で実施しています。

はじめに、教科に関する調査について、小学校では、国語は例年を上回り、全道平均と「同様」としてははやむを得ず事業を中止としましたが、令和4年度は、感染症の影響はあったものの、対策を講じながら3年ぶりに事業を実施しました。

令和5年度の開催についても、昨年度と同様にコロナ禍に参加できなかった対象学年を考慮し、従来の小学6年生から中学1年生としていたものを中学2年生までとし、定員についても10名増員した30名を募集いたしました。

募集の結果、小学6年生15名、中学1年生4名の計19名の応募があり、中学2年生の参加希望はありませんでしたが、昨年の中学1年生の参加が11名いたことから本年の参加希望がなかったと分析しています。

参加募集期間後に開催しました教育委員会において、本研修がリーダー養成研修であり、意欲や向上心の高い児童生徒を選考する観点から、追加での募集をしないと判断し、過日行いました選考会において、応募があった児童・生徒全19名、高校生サプリーダー1名を参加者として決定しています。

また、本研修実施にあたっては、過去の実績や今後の方向性について検証することとしており、先般開催しました教育委員会、総合教

なり、全国平均との差も少なくなりました。

算数についても例年を上回り、全道平均よりやや高く、全国平均と「同様」の結果となっています。

中学校では、国語は全国平均もやや上回り、数学は全道・全国平均と「ほぼ同様」という状況となっています。

令和元年度以来となる英語では、全道平均を僅かに上回り、全国平均と「同様」の結果となりました。

また、児童生徒質問紙からは、北海道や全国の平均に比べ、小中共通の傾向として「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合が高く、特に中学校で「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と回答した生徒が多いことから、地域への関心が高く、学年が上がるにつれ、ふるさとと自分自身の関わりについてしっかりと考えていることがうかがわれます。

さらに、中学校の英語の平均正答率にも表れています。小学校・中学校ともに、英語の学習への関心・意欲が高く、小学校では「外国のことをもっと知りたい」、中学校では「地域のことを外国の人にもっと知ってもらいたい」と考えている児童生徒が多いことから、

育会議において協議を行い、研修の視点、研修地「沖繩」、交流先となる金武町の3点について検証した結果、歴史や風土、気候や暮らしの違う、沖繩県は非常に研修効果が高く、また、交流先の金武町中川区とも良好な相互交流が実施できていることから、今後も継続して沖繩県を研修地として実施することが望ましいと見解を示したところでありますが、本年度は私自身も引率者に加わり、事業参加した上で、さらに検証を深めていきたいと考えています。

今後、保護者説明会、事前研修を行いながら、児童生徒のリーダーとしての資質向上を図りつつ、充実した内容により本研修事業を進めていきますのでよろしく願います。



令和4年度少年国内研修交流事業 金武町中川区子ども会との交流